2021.4.11

ニリンソウ自生地保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会
編集責任：運営サポーター／木村松夫　090-8646-9757
akatsukanironso@gmail.com

ニリンソウ月間中のサービスセンター主催の行事は中止になりました。ご来園のみなさまには、万全のコロナ感染防止対策を取った上でお楽しみください。

・ニリンソウを守る会の活動
5/9（日）10：00　大門地区観察台集合
自生地観察会（秋に向けて、昨年の手入れの見直し）

・赤塚公園植物観察・記録活動（モニタリング）
4/19　5/3、5/10、5/17　9：00～12：00
ため池公園梅林下集合→大門まで歩きます。

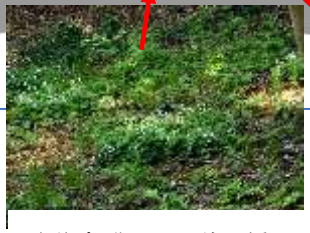
赤塚公園の東から西まで全域に広がるニリンソウ

赤塚公園ニリンソウを守る会　20210411　徳丸２地区の崖線歩き

池がある草原、人が歩く足元に咲くニリンソウ↓

4/11 は、いつもは歩かない赤塚公園の東側エリアの徳丸緑が丘緑地地区と辻山地区の武蔵野台地崖線を観察に出かけました。

このピンク色マークがニリンソウの群落。いちばん西の端まで、ニリンソウの群落が続いていることが確かめられました。



↑住宅群の目の前の緩斜面にニリンソウ群落と並んでホウチャクソウの大群落もあり
←徳丸最西端、台地にのぼる急な階段の近くのリンソウ群落

↑クレソンが茂っている水路の上の石垣には目線の高さで約 70 メートルにわたるニリンソウの大群落

↑赤塚公園のいちばん西のはずれの送電線の塔の下、フェンスの向こうに群落

このエリアでも確かめられる
ニリンソウが生きている環境はほかの植物も生きやすい環境
まだ生物多様性が保たれている！

4/11 の徳丸２地区の観察活動で開花または展葉が記録された植物は次の 40 種でした（強調文字が写真で紹介しているもの）。

ナヨクサフジ（?）、ニリンソウ、ヤマブキソウ、ムラサキサギゴケ、**ホウチャクソウ**、ヤマブキソウ、**ケキツネノボタン**、**ウラシマソウ**、**クサイチゴ**、**アカミタンポポ**、タンポポ交雑種、オオスズメノカタビラ、イチゴツナギ、ハナダイコン、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴ、タチツボスミレ、ツボスミレ（ニョイスミレ）、ムラサキケマン、オオイヌノフグリ、ミドリハコベ、コハコベ、ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴ、オニタビラコ、ヤブタビラコ、シャガ、ヒメオドリコソウ、ヤエムグラ、ハルジオン、スズランスイセン、オオキバナカタバミ、イモカタバミ、ヤマブキ、ニワトコ、ヤブタバコ（葉）、クレソン（葉）、ヒヨドリジョウゴ（葉）

赤塚公園の全体の中でもここはいちばん民家と密接しているのですが、全部が野草でないとしても、そこでこんなにたくさんの植物が観察されるということはすごいことです。

峡田道に沿った民家群、台地の上は武蔵野の面影　人と自然が共存しているのかも？

崖下の道を昔は「峡田道＝はけたみち」と言っていました。台地からの雨水が溜まったり地中から湧いた水が多い場所で、谷地田（やちた）という田んぼがつくられていたのですが、現在の峡田道には民家が立ち並んでいます。

この日の観察活動で気が付いたことは崖下のみどりの中にごみがまったく見当たらなかったこと。隣接地帯の住民の方々はこの崖線に親しみを持って暮らしているのではないかと思いました。

台地の上にはまだ昔の武蔵野の面影が残っていて、徳丸２地区には独特の魅力があります。